

本書の構成

本書は、基本編、実践編、次世代編のどこからでもお読みいただける構成にて編集されています。

基本編 では、
(PP.14～74)

- 「リアルタイムPCRでは、どのような解析が可能なの？」
 - 「なぜ、定量できるの？」
 - 「プライマーやプローブの設計のポイントは？」…
- など検出法・定量法の原理を基本から一歩ずつ解説

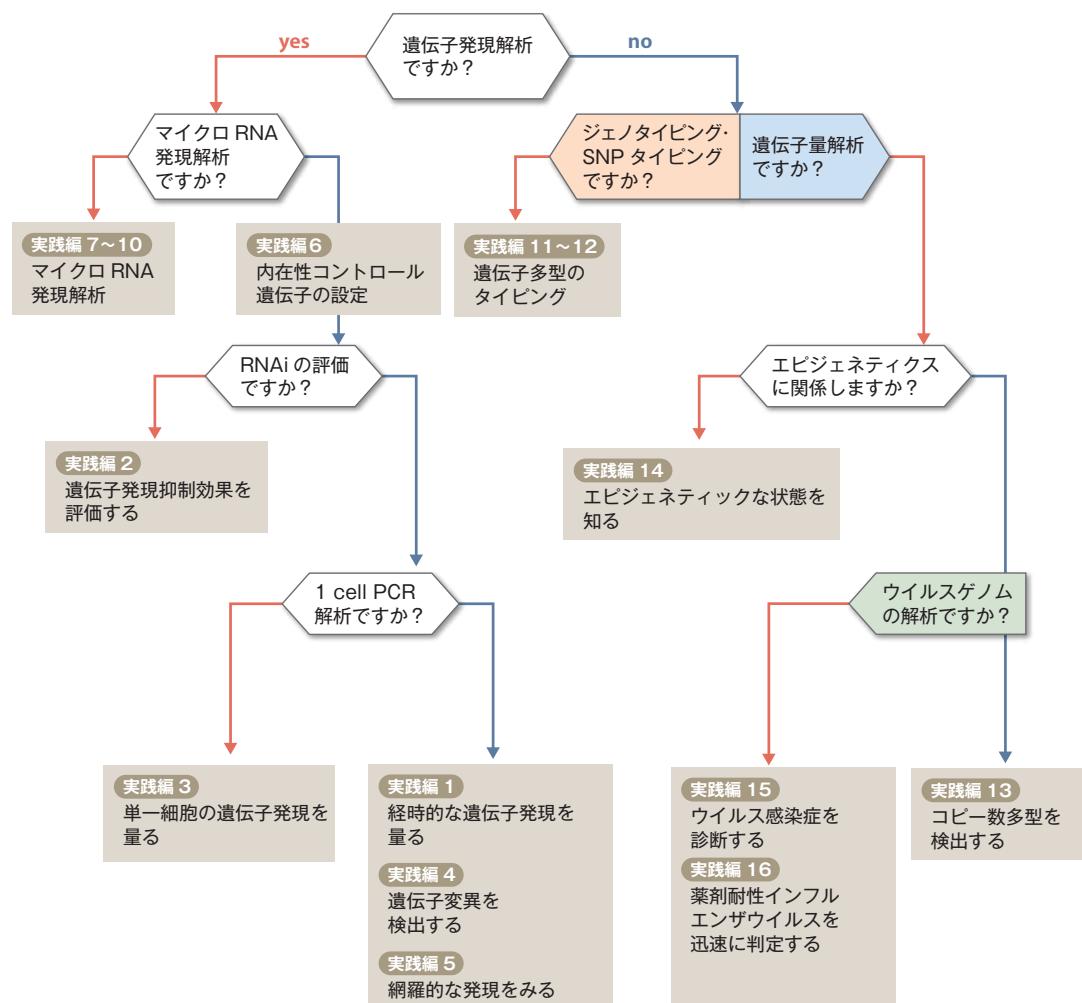
実践編 では、
(PP.75～213)

- 「経時的な遺伝子発現を定量したい」
 - 「新規のバイオマーカーを探したい」
 - 「SNPやCNVを検出したい」…
- などの目的や興味に応じた、プロトコールと実際の応用例を解説
(各項目へのナビゲーションは次ページ参照)

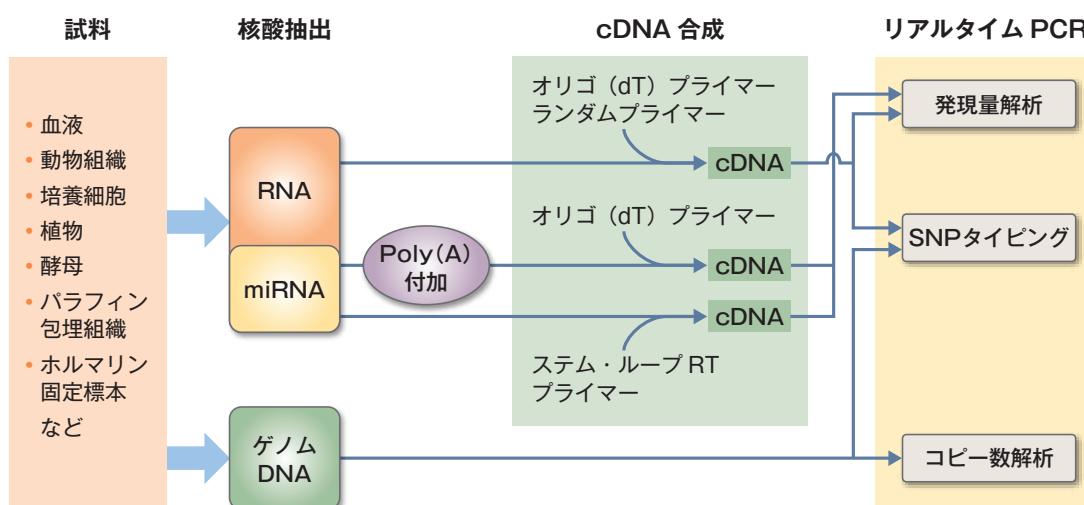
次世代編 では、
(PP.214～229)

- 「デジタルPCRって？」
 - 「どんな実験が可能になるの？」
- など、次世代のPCR、デジタルPCRを実験例を交えて解説

実践編 各項目へのナビゲーション



リアルタイムPCR実験の流れ



実践編のプロトコールについて

実践編に掲載のプロトコールは基本的に以下のようになります。

準備 必要機器・試薬などの一覧

プロトコール 時系列をおった手技の流れ

実験例 実際に得られるデータの例

書籍内の他項に関連情報がある場合は、
実践編〇〇参照
のような形で示してあります

TOTAL 左のアイコンにてリアルタイムPCRにかかる時間の目安を示します（機器に依存するため、参考としてご活用ください）